

# 腹腔鏡内視鏡

## 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery

第19回 2019年3月1日

■ 1-JP	胃上部 GIST に対する LECS の手術成績と手術手技の工夫 Surgical outcome and surgical technique of LECS for the gastric GIST in upper third of stomach
--------	--

代表演者：田島 シェシー雄（がん研有明病院消化器外科）

**Speaker: Jesse Yu Tajima, Cancer institute hospital of JFCR, department of Gastroenterological surgery**

共同演者：井田智 大竹玲子 大橋拓馬 高橋遼 八木秀祐 李基成 庄司佳晃 加納陽介 熊谷厚

大橋学 布部創也

所属施設：がん研有明病院消化器外科

【背景】消化管間質腫瘍 (GIST) に対して、腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) が普及してきた。しかし、胃上部、とくに食道胃接合部 (EGJ) 近傍では、LECS を回避し噴門側胃切除術 (PG) などの胃切除が選択されることもある。当院での胃上部の GIST に対する LECS の短期手術成績と手術手技について報告する。

【対象】2006年1月～2018年3月までに噴門部を含む胃上部の GIST 対し LECS を施行した 100 例。

【手術手技】1) 内視鏡下に病変の周囲をマーキングし正確な位置確認後、腹腔鏡下に周囲血管を最小限処理する。2) 内視鏡下に粘膜下層の深さで全周性に周囲切開し、肛門側から全層切開（穿孔）を行う。肛門側から開始することで、腫瘍を肛門側に牽引しながら口側が切離でき、EGJ の切離を最小限にできる。3) 腹腔鏡下に腫瘍を切除する。4) 胃壁欠損部は基本的に手縫いで閉鎖する。EGJ の切離が半周以上の場合は、欠損部の縫合閉鎖が困難となり縫合不全などのリスクが高いため、PG への術式変更を検討する。

【結果】平均手術時間は 189 分、平均出血量は 15ml、術後合併症は創部感染と胃排泄遅延をそれぞれ 1 例認めた。食事開始は術後 2 日目、術後平均在院日数は 7.4 日であった。また 1 例で EGJ に半周かかる病変であったため LECS から PG に術式変更した。

【結語】胃上部の GIST に対しても、LECS は安全に行える手術手技であるが、EGJ に半周かかる症例に対しては注意を要する。